

目次

- 新コース Citrix XenApp 6.5 Advanced Administration リリース！
- トピック Inst. Tech View ～第26回 PowerPoint 覚えておきたいTIPS集～
- コラム スーパーエンジニアの独り言 第24回 “アメリカを探しに”

 ★技術コラム続々更新中！！★

6月更新最新コラム

- ・「LinuxCon Japan 2013」の会場から
 (RedHat 中井様)
- ・デスクトップの仮想化 (志茂様)
- ・XenDesktopによるデスクトップ仮想化を無償版で試す
 (Citrix 島崎様)
- ・仮想環境とネットワーク
 (Microsoft (ビズポイント) 小塚様)
- ・デバッグお役立ちツール『Better Errors / Rails Footnotes』 (松永様)
- ・【IT人材白書より】アジャイル型のほうがエンジニアが
 楽しくて仕事を誇りに思えるというデータ (吉政創成 吉政様)

<http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=1145&m=19849&v=37e44390>

新 | コ | ー | ス |

◆◇ Citrix XenApp 6.5 Advanced Administration リリース！ ◇◆

この度、CTC教育サービスでは、Citrix認定コースのCitrix XenApp 6.5 Advanced Administrationをリリースいたしました。

Citrix XenApp 6.5 Advanced Administrationは、Windows Server 2008 R2上でのXenApp 6.5 運用における監視、運用、最適化、そしてトラブルシュートに必要なスキルを習得するために最適なコースです。本コースには、多数のハンズオン演習が含まれており、演習によりコース内容をさらに深く、詳細に学習していただくことができます。

また、本コースはCitrix認定アドミニストレーター資格CCAA for Citrix XenApp 6に対応しております。CCAA取得をお考えの方も、是非本コース受講をご検討ください。

皆様のご受講を心よりお待ちしております。

X010 : Citrix XenApp 6.5 Advanced Administration
 期間 : 5日間
 価格 : ¥353,115 (税込み)
 詳細 : <http://dm.ctc-g.co.jp/c?c=1146&m=19849&v=0209f5c3>
 日程 : 10/21-10/25

ト | ピ | ッ | ク |

◆◇ 『Inst. Tech View ～第26回 PowerPoint 覚えておきたいTIPS集～』 ◇◆

今回のInst. Tech Viewは、Microsoft PowerPoint (以下PowerPoint) を使用する際に知っておくと便利な小技についての話題です。

これまでのInst. Tech Viewで、PowerPointを使用したプレゼンテーションテクニックをご紹介したこともあります。今回は資料作成時に使用できるテクニックのご紹介です。

PowerPointを使いこなしている方にとっては既にご存知の内容も多いかもしれませんが、少しでもお役に立てればということであまり知られていない

ようなテクニックを中心にご紹介していきます。

なおバージョンとしてPowerPoint 2007/2010を想定しております。また、一部PowerPointに特化した機能ではなく、Microsoft Office共通の操作もあります。

●リボンの最小化・展開 (Ctrl + F1)

Microsoft Office 2007から導入されたリボン (メニュー・コマンドなどを集約したもの) は、各種操作を行うときに便利なものですが、時としてリボン用のスペースを節約したいと思うことがあるかもしれません。

そのような時はCtrl + F1を押下してください。リボンをタブだけ残し折りたたむことが可能なので、広い画面で編集が可能です。タブをクリックすれば一時的にリボンを開くこともできますし、再度元の画面に戻りたいという時は再度Ctrl + F1を押下すれば戻せます。

なお、リボンの右上にある矢印のようなボタンを操作することでも同じ効果があります。

余談ですが、メニューがリボンになってからコマンド (ボタン) の場所がよくわからなくなったという声を時折耳にします。もし、何らかのコマンドを探すときには、まず「ホーム」タブ内を探すといいことを覚えておくと良いかもしれません。ご存知の方も多いかと思いますが、「ホーム」タブには最も頻繁にアクセスするコマンドを集約するよう設計されています。

●箇条書きをSmartArtに変更 (「ホーム」タブの「SmartArtに変換」)

Microsoft Office 2007から導入されたSmartArtは、情報を視覚的にわかりやすく表現するために非常に便利な機能ですが、ゼロから作成することを面倒に感じる方もいるのではと思います。

そのような方にお勧めなのが、既に作成済みの箇条書きをSmartArtに変更する機能です。

箇条書きになっているテキストボックスを選択し、リボンのホームタブ中ほどにある「SmartArtに変換」を選択してみてください。

複数のSmartArt候補の中から目的に合ったものを選択するだけで、視覚的に効果の高いSmartArtを作成できます。なお、SmartArtを選択した状態で表示されるリボンのタブ、「デザイン」にて色の変更やスタイルの変更が簡単に行えます。提案資料などですぐに活用できるので是非お試しください。

●オブジェクトの調整

オブジェクトの移動には、マウスや矢印キーを操作しますが、そこにShiftやCtrlを組み合わせることで行える以下の微調整方法をご紹介します。組み合わせにご注意ください。

- ・オブジェクトを縦または横位置を固定したまま移動 (Shift + 左ドラッグ)
オブジェクトを選択し、Shiftキーを押下したままマウスの左ドラッグを行うと、縦または横の位置を固定したままオブジェクトの移動ができます。
※Ctrlキーを押下したまま左ドラッグを行うと、オブジェクトの複製となります。

- ・オブジェクト位置の微調整 (Ctrl + 矢印)

オブジェクトを選択し、Ctrlキーを押下したまま矢印キーを押下すると、オブジェクトを通常より細かく移動させることが可能です。

※Shiftキーを押下したまま矢印キーを押下すると、オブジェクトのサイズ調整となります。

●フォントサイズ拡大/縮小のショートカット

(Ctrl + Shift + > / Ctrl + Shift + <)

比較的良好に使用する操作で、フォントサイズの拡大や縮小操作があります。フォントサイズを直接指定するのではなく、各項目の大小関係を維持したまま、指定したテキストボックスのフォントサイズバランスを調整するものです。ホームタブの中にもこのメニューはありますが、キーボード操作で実施するショートカットも用意されています。

拡大の操作はCtrl + Shift + >、縮小はCtrl + Shift + <です。

●ファイル保存のショートカット (Ctrl + s / F12)

ファイルの保存は編集時に頻繁に行う操作なので、ショートカットを活用したいところです。上書き保存する際の操作Ctrl + sはご存知の方も多いかもしれませんが、名前を付けて保存をする際にF12が使用できることはあまり知られていないかもしれません。ご活用ください。

今回の紹介は以上とさせていただきます。

少しでも皆様の資料作成等のお役に立てれば何よりです。

弊社でも、皆様の理解が効果的に深まるよう弊社オリジナルのテキストや補足資料などを作成しております。今後とも弊社教育サービスをよろしくお願いいたします。

コ | ラ | ム |

◆◇『スーパーエンジニアの独り言 第24回 “アメリカを探しに”』◆◇

“Look for America”は、サイモン&ガーファンクル (Simon & Garfunkel)の曲「アメリカ」(America)で繰り返し流れるサビのフレーズです。

「一箱の煙草とミセス・ワグナーのパイを買って僕等は歩き始めた、アメリカを探しに。」

ポール・サイモンが書いた歌詞を読むと繰り返される「アメリカを探しに」は、アメリカという国を指していないと感じられます。「アメリカ」は曲のテーマどころかむしろ何も意味していないのかもしれませんが、解釈は受け次第ですが、筆者はアメリカン・ニューシネマの代表作である「タクシードライバー」のロバート・デ・ニーロを想起しました。「アメリカ」で描かれているロードムービーの風景とは異なりますが、デ・ニーロ演じる主人公の心情には同じ風景が見えました。

ところで「アメリカ」と「クラウド」が酷似している様に感じる事が頻繁にあります。

会話の中で「クラウドの▲△▲」とか「クラウドが○●○」と表現される場合には、それは何も指していない、何も意味していないことが多いように感じます。「クラウド」という言葉が使われる文脈やその発言の意図にもよりますが、他の言葉に置き換えても成り立つことが多いのです。

これは「クラウド」だけに限ったことではなく、IT業界に流布されているバズワードやアンブレラタームも同様で、「音」だけを繰り返しても、その言葉が意味することの本質や実際の対象を捉えることは出来ないのは道理です。以前に流布された「ウェブ 2.0」(Web 2.0)も時代が急激に変化する潮流を表現した言葉であり時代を駆動するムーブメントとされる現象につけた名前です。この言葉だけで実際に起こっている個々の事象とそれによる影響を理解することは出来ません。

一般に何事も俯瞰して物事の全体像を捉える姿勢がまずは重要であります。「森を見て木を見ず」で投了してしまっただけでは、各論に踏み込もうとする気がない意思の表れでありましょう。それは単に該当する当人が理解できる範囲のみで判断することでご自身の理解が及ばない全てを丸めて切り捨ててしまう、あるいは、曲解することとなり、兎いては勘違いや誤った指針を立てるなどの弊害すら起こり得ます。

これには顕著な例があります。ミニコンを擁し一時代を築いたDEC (Digital Equipment Corporation)社の幹部が、検索エンジンの草分けであったAltaVista (アルタビスタ)をハードウェアの性能を示すデモプログラムに過ぎないと決め付けたことが知られています。当初、AltaVistaはマシンの性能指標が目的だったのでしようが、全文検索エンジンとして公開され一躍広く認知された存在となりつつあったにもかかわらず、その有用さと将来性を見抜けなかったことが彼等自身の寿命を縮めました。彼等が理解可能なものは眼下にあるハードウェアだけだったのでありましょう。理解できるものだけを理解し、観たいものだけが見えるのは人間の習癖であります。しかし、それでは取り巻く潮目の変化を捉えることが出来ず、警鐘を打ち鳴らす音が聴こえず、その価値が解からず、その偏狭さ故に将来を予見できないこととなります。その後のDECの凋落ぶりはご存知のとおりです。

彼等は赤の丸薬と青の丸薬の二択が与えられ、その選択を誤ってしまったのです。確かにあの時は選択肢があってAltaVistaが現在のGoogleとなっている未来を自ら選ぶことも出来たのかもしれませんが、もしかするとその選択肢の存在にすら気がついていなかったのかもしれませんが、ある種の寂寥感すら覚えます。皮肉にも“AltaVista”は「高いところから見る」という意味だそうです。

ご興味があればジョン・バツテルの著書をご覧ください。

一本一本の樹に対峙してそれぞれが異なる樹であることを理解することで、どのように森を構成しているかの意味とその集合体としての本質の理解に到達できるのだと考えます。
ある一本の樹を担当する、あるいは、森全体を管理するなど各々で立場の違いはありますが、「木を診て森を視る」という双方の視点を持ち適時移動させることが肝要であろうと考えます。

以前の記事タイトルで「転石苔を生ぜず」を取り上げましたが、これを意味している「ライク・ア・ローリング・ストーン」(Like a Rolling Stone)という曲は、時代を象徴するアーティストであるボブ・ディラン(Bob Dylan)の曲です。この曲の演奏には名ギタリストのマイク・ブルームフィールドと名コンポーザーのアル・クーパーがオルガンで参加していて、1965年発表の「追憶のハイウェイ61」(Highway 61 Revisited)というアルバムに収録されています。

今回記事のモチーフである“America”は1968年リリースの「ブックエンド」(Bookend)に収録されていますが曲の完成は1965年とされています。同年発表の「サウンド・オブ・サイレンス」(The Sound of Silence)と同じデモテープに入っていたためです。“The Sound of Silence”は映画「卒業」のテーマソングとしてとても有名です。このダスティン・ホフマン主演の映画もアメリカン・ニューシネマを代表する作品です。

このように1965年を境にフォークからフォークロックへとソリッドに変貌する流れと同時に、ロックンロールからロックへと脱皮し成長する二つの激流がぶつかり、その果てにはルーツであるアメリカに逆流となってブリティッシュ・インヴェイジョンが巻き起こるまでに至りました。私感ですが1965年はロックが誕生し元号が変わったと言えるほど潮目が大きく変わった特別な年だと言えるでしょう(別の意味でも筆者にとって1965年は特別です)。これからも音楽や映画だけでなくコンピュータとインターネット、そして何より人心の潮目の変化を見逃さないように心したいと思います。

次回もお楽しみに。

■お問合せ・ご意見・ご感想は◆CTC教育サービス◆窓口まで
シーティーシー・テクノロジー株式会社 エデュケーションサービス部
E-Mail: kyouiku@ctc-g.co.jp / TEL: 03-5712-8701

●外部委託について

弊社はメールニュース配信業務をシーティーシー・ビジネスサービス株式会社(CTC100%出資子会社)に委託しております。

●本メールマガジン編集・配信責任者

CTCT エデュケーションサービス部 部長 篠原 義一

所在地: 東京都世田谷区駒沢1-16-7 ctc_edu_mail@ctc-g.co.jp

●個人情報保護方針

CTCグループの個人情報保護方針につきましては下記URLをご参照ください。

http://www.ctc-g.co.jp/guide/security_policy.html?top=b_security

●配信中止及びお問合せ対応について

- ・「CTC教育サービス News&Topics」の配信が不要な場合には、下記URLから配信停止のお手続きを行ってください。
<https://krs.bz/ctc-g/m/ctc-education>
- ・当社では、複数種類のメールマガジンやメールニュースを発行しております。大変お手数ですが、CTC教育サービス以外からのメール配信についての受信拒否および個人情報に関するご要求は、各メールに記載の個々の連絡先宛にそれぞれご連絡をお願いします。
- ・受信者ご本人様からの個人情報の開示・訂正・削除に関するご要求は、随時 ctc_edu_mail@ctc-g.co.jpにてお受けいたします。